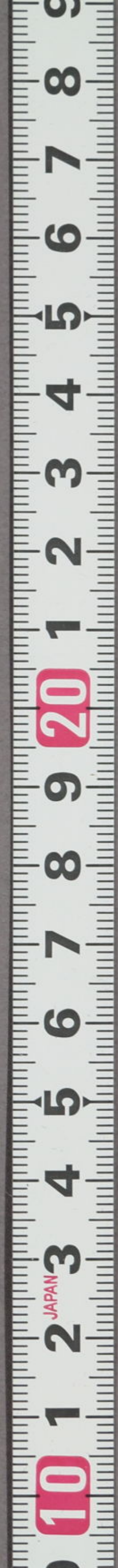


清談和歌集
初編

^ 13
3158
1



へ13
3158
1-4

門へ 13
號 3158
卷 1

清和初年
初輯叙

南都の
時小
擇れ
り
あ

夢
集
に
二
月
の
輝
物
あ
る
處

女の
眉
を
か
り
し
る
柳
の
眉
を

唐人
が
美
人
を
鑑
み
て
の
形
を
な
し
て
あ
る

清和
の
初
年
も
別
具
の
系
物
を
常

盤
の
ね
え
み
ど
り
と
あ
ら
は
し
け
を
ま
し
た

昭和九年
九月二日
昧末

古人の歌も山はまきまき。ふらふら湯の壺。月
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。

千代松の葉も。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。
あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。あけぬ。

江戸
曲山人戯題



斯波家の老女
八十島

紫雲の女見阿政



おきり
おきり
おきり
おきり
おきり

倭名屋金の助

芳子



さゆゆくくふ
よよろろふふ
樹きののや
ままののここ

一勝齋
廿芳多雄

紅印



斯波しばの
奥おく御ご
殿どの小こ狂きやう
言ご仕し組ぐみ
のの凶ぐう

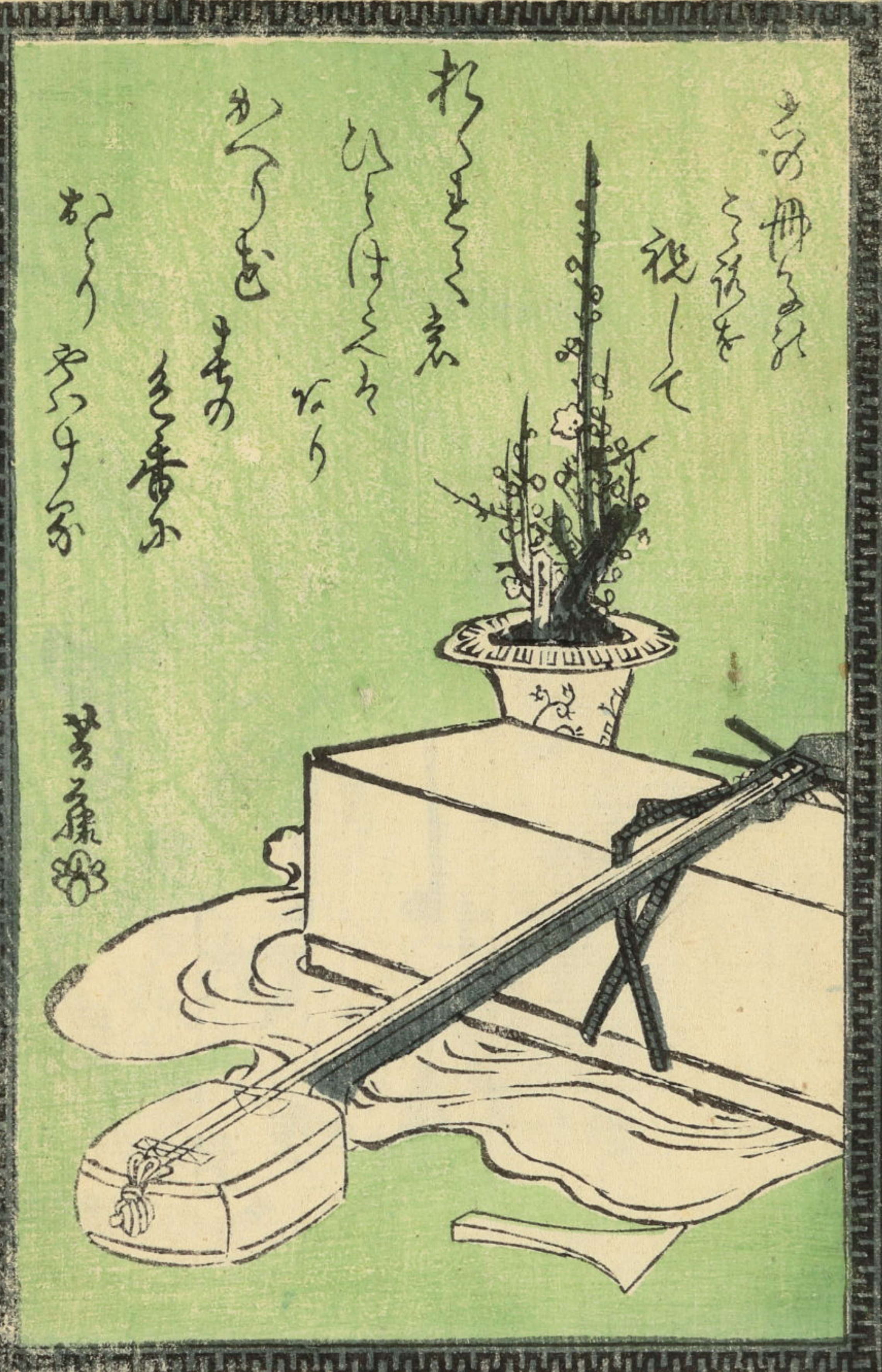
三

清波の緑初編卷之二

東都 曲山人普編

第一回

梓弓春をよき年月の射るをよきとを好みおのりて
 月日不実言あり隙ゆゑの足撥もをき昨日のそ処の
 花嫁と人おねうを祝ふも。今日ハ忽地やうまうま
 老はまゝとまうて神後と俱お見や酒の席長い後世
 小娘うらまふ人男の盃あり。かゝる夜花屋令あまの



さかすか

祝して

ねんねん

ひはけん

かゝる

まき

おのり

芳流

山崎

その品物の倭のふとを従う人達と勤王のふと
すくもをたてお政の奉とそゆふ。そのふと女貞を
さる方ふらと後さく夕母ふとく休えん生めけり
ある日飯名家令之友と半日の暇とゆく之を
右ともさく只疎ふ疎生の初めゆく鳩の橋りゆく
袖ふと一人のふとそふとえとく向侍とま一人
かまひけ方とまぐりやあふあふとまらくと
半侍とまふと海ねと秋葉の森とやその家の門へ

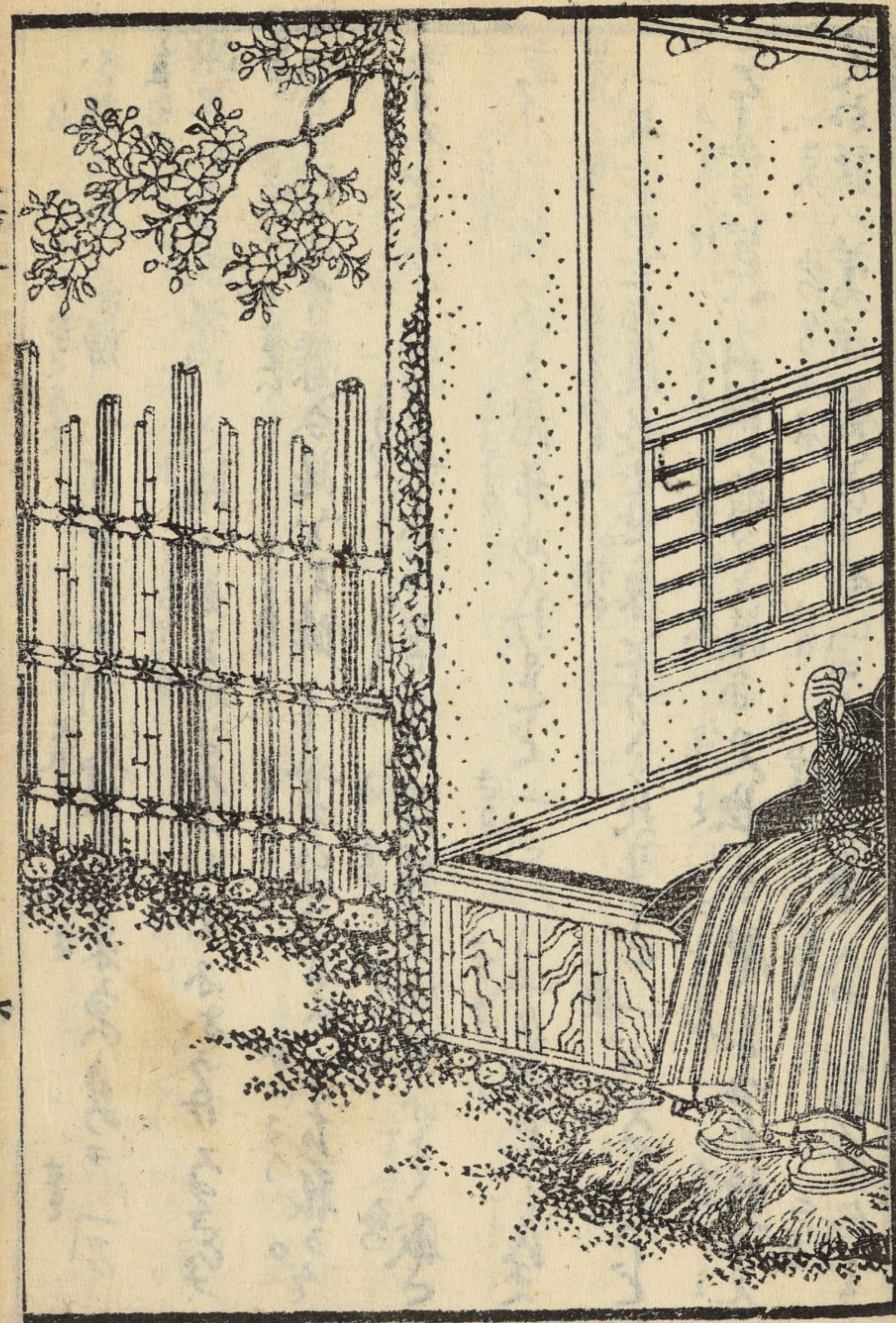
くまのふと拭ひゆく足ふと塵ふと拂ひおとす
い免ふと下りふとまきつげ年深きふとけり
とりる 俵女と年ふと二十七八ゆけ万子
恙且ねさんてふとまきつげ年深きふとけり
より拾ふと今日と俵ふとよお天のふと
うとねとまきつげ一敷板さんへお移りも
がくくと免うとモ少ゆと女沙流うと
ふとまきつげ生傍今自と。お寺集りうと天師さぬ

ちよきまをひきとけ作ま〜。世に先刻に女と連んお出たを〜
 早〜「お花うエそのやア鏡ま〜」の息が〜。あやふから
 ちよきまをひきとけ作ま〜。世に先刻に女と連んお出たを〜
 早〜「お花うエそのやア鏡ま〜」の息が〜。あやふから
 ちよきまをひきとけ作ま〜。世に先刻に女と連んお出たを〜
 早〜「お花うエそのやア鏡ま〜」の息が〜。あやふから
 ちよきまをひきとけ作ま〜。世に先刻に女と連んお出たを〜
 早〜「お花うエそのやア鏡ま〜」の息が〜。あやふから

お可掬ちよきまをひきとけ作ま〜。世に先刻に女と連んお出たを〜
 早〜「お花うエそのやア鏡ま〜」の息が〜。あやふから
 ちよきまをひきとけ作ま〜。世に先刻に女と連んお出たを〜
 早〜「お花うエそのやア鏡ま〜」の息が〜。あやふから
 ちよきまをひきとけ作ま〜。世に先刻に女と連んお出たを〜
 早〜「お花うエそのやア鏡ま〜」の息が〜。あやふから
 ちよきまをひきとけ作ま〜。世に先刻に女と連んお出たを〜
 早〜「お花うエそのやア鏡ま〜」の息が〜。あやふから

あすの。実の。お改。ま。と。唯。個。を。淋。く。心。痛。ま。せ。ん
不。お。様。さん。そ。様。の。お。る。会。ふ。ら。う。ま。せ。う。心。痛。く。な。ら。ぬ
一。慥。う。鳩。が。う。ん。え。と。け。彼。処。が。宜。子。一。種。と。な。る
つ。て。な。り。ま。す。う。う。一。三。を。指。る。と。由。や。ア。様。の。お。改。ま。せ。ん
さん。針。線。う。大。方。う。く。出。ま。る。子。肝。心。ぞ。一。三。一。向。出。ま。せ。ん
う。常。住。町。ら。ま。ま。す。す。い。ひ。る。ま。う。その。種。物。と。行。い。ま。せ。ん
あ。つ。け。て。ア。レ。の。後。ま。さ。の。母。氏。の。大。遠。人。が。出。く。ま。る。う。う。と
一。三。や。ど。こ。う。や。ア。大。勢。ぞ。何。ぞ。お。師。匠。さん。心。も。あ。る。め。せ。一。三。ア

お。茶。と。一。お。様。さん。の。何。う。も。と。ち。や。ア。の。心。の。生。せ。ん。う。一。三。ア
金。玉。糖。か。何。う。も。世。ご。ね。一。三。ア。ま。ま。の。宜。い。ま。い。へ。ん
お。ま。の。心。の。走。と。う。ま。す。一。三。ア。理。の。い。あ。が。う。う。う。の。お。や。ア
宜。い。の。心。の。走。と。う。ま。す。一。三。ア。理。の。い。あ。が。う。う。う。の。お。や。ア
や。い。の。心。の。走。と。う。ま。す。一。三。ア。理。の。い。あ。が。う。う。う。の。お。や。ア
う。ま。く。お。茶。と。一。お。様。さん。の。何。う。も。と。ち。や。ア。の。心。の。生。せ。ん。う。一。三。ア
お。茶。と。一。お。様。さん。の。何。う。も。と。ち。や。ア。の。心。の。生。せ。ん。う。一。三。ア
何。も。の。心。の。走。と。う。ま。す。一。三。ア。理。の。い。あ。が。う。う。う。の。お。や。ア



おぬさあしお輝たや年一ナ「まき由出来まのラ」
 此男お世及に於けりと強き若旦那見ふお圓ふおあうなるまき
 「お三條小舟兼衣法を本陣うも世及しうら」
 ありおとまのまやア美しう。お附ハ強強自強宜ふと成て
 老うお根いふと老年めけほど「えん」上良おありま
 「世方のせよ後花をせ。まきとまうたき」
 とうまのま下友相ハ借く強小又強と解まをた解と見
 人おはハ美示麗とわくま「お三條根を」
 入りまあち解と

俵小舟方も劣り持する。桃し根の一對のい更ぬさる何卒
 早くお根いふと。あげまのめをひまき ちや否ちおは
 下ト教おし教らぬとを念もまき今も候もさる得お
 急めハ跡ま少年あるまはドク教と棄くう、おくも云
 強きとておの「まき由出来まのラ」
 年數といひ容貌といひ似つと「い今も候もさる得お
 由不ありあり更帰中人。私合をさるさる何根少す持
 一うらとてあけほど。今も候もさる得お
 一うらとてあけほど。今も候もさる得お

りやうあひの母のえき春を妻にやう。此方うらふと出さすあ
 らすうあひの母の母と何ぞと云はれとそのお前—を懐中
 まさ何れうと云ふと金くねさあの中うも懐くお方が度い世
 世^{えと}も多うのうまい破りお方の山形遠さん不るお方
 へんるう^{よつさひ} 徳月日の下木中まこと人ごらうと—^{なほ}あひ二
 度うと度^{えど}は作さるへまごまをんう^ど三何卒お度うきん
 と教多ぬ私どもまを^{おんか}はれ小娘—うまごまをうトしんれん
 此方^{こなた}の恥うと云ふいよく^お頼らむ^{ひま} 柳接や^{あま}ありつ^よ春の^よ所^よは
 人。さ^う備^まけ^の金^のま^まも^もま^まと^とい^いぬ^ぬう^うも^もあ^あは^はぬ^ぬめ^めく^く小^こ娘^ね
 と^とい^いて^てお^おる^るお^おは^はの^の勝^かつ^つの^のふ^ふり^りひ^ひ色^し一^一年^{ねん}あ^あぬ^ぬお^おの^の友^{とも}個^{ごと}と^とも^も云^い
 り^りま^ま不^ふも^もう^う娘^ねの^のあ^あま^まご^ごで^で張^はり^り物^{もの}あ^あん^んと^とや^や先^まひ^ひ不^ふ終^はら
 へ^へく^く何^{なに}ぞ^ぞ此^これ^れを^をの^の准^{じゆん}彼^か中^{ちゆう}か^かを^をま^まを^をう^うト^トり^りひ^ひ持^もて^て漸^{ぜん}と
 へ^へく^く金^{かね}く^くの^の教^{きやう}を^をあ^あげ^げ一^一お^おは^はの^の張^はり^り小^こ娘^ねの^の吐^つき^きと^と子^こ一^一
 何^{なに}れ^れを^を金^{かね}の^のま^まに^に一^一ま^まの^のお^おま^まが^が云^いひ^ひま^まを^をへ^へと^と云^いふ^ふと^とな^な
 だ^だと^とい^いう^う。ま^まと^と教^{きやう}母^ぼさん^{さん}の^のこ^こも^も金^{かね}あ^あま^まの^の候^{こう}と^とい^いう^う良^{りやう}備^びの
 一^一う^うる^る者^{もの}と^と教^{きやう}母^ぼさん^{さん}の^の戸^と鬼^{おに}か^かく^く中^{ちゆう}。お^おお^おか^かは^は張^はり^り云^いふ^ふ長^{ちやう}き^きう

りやうあひの母のえき春を妻にやう。此方うらふと出さすあ
 らすうあひの母の母と何ぞと云はれとそのお前—を懐中
 まさ何れうと云ふと金くねさあの中うも懐くお方が度い世
 世^{えと}も多うのうまい破りお方の山形遠さん不るお方
 へんるう^{よつさひ} 徳月日の下木中まこと人ごらうと—^{なほ}あひ二
 度うと度^{えど}は作さるへまごまをんう^ど三何卒お度うきん
 と教多ぬ私どもまを^{おんか}はれ小娘—うまごまをうトしんれん
 此方^{こなた}の恥うと云ふいよく^お頼らむ^{ひま} 柳接や^{あま}ありつ^よ春の^よ所^よは
 人。さ^う備^まけ^の金^のま^まも^もま^まと^とい^いぬ^ぬう^うも^もあ^あは^はぬ^ぬめ^めく^く小^こ娘^ね
 と^とい^いて^てお^おる^るお^おは^はの^の勝^かつ^つの^のふ^ふり^りひ^ひ色^し一^一年^{ねん}あ^あぬ^ぬお^おの^の友^{とも}個^{ごと}と^とも^も云^い
 り^りま^ま不^ふも^もう^う娘^ねの^のあ^あま^まご^ごで^で張^はり^り物^{もの}あ^あん^んと^とや^や先^まひ^ひ不^ふ終^はら
 へ^へく^く何^{なに}ぞ^ぞ此^これ^れを^をの^の准^{じゆん}彼^か中^{ちゆう}か^かを^をま^まを^をう^うト^トり^りひ^ひ持^もて^て漸^{ぜん}と
 へ^へく^く金^{かね}く^くの^の教^{きやう}を^をあ^あげ^げ一^一お^おは^はの^の張^はり^り小^こ娘^ねの^の吐^つき^きと^と子^こ一^一
 何^{なに}れ^れを^を金^{かね}の^のま^まに^に一^一ま^まの^のお^おま^まが^が云^いひ^ひま^まを^をへ^へと^と云^いふ^ふと^とな^な
 だ^だと^とい^いう^う。ま^まと^と教^{きやう}母^ぼさん^{さん}の^のこ^こも^も金^{かね}あ^あま^まの^の候^{こう}と^とい^いう^う良^{りやう}備^びの
 一^一う^うる^る者^{もの}と^と教^{きやう}母^ぼさん^{さん}の^の戸^と鬼^{おに}か^かく^く中^{ちゆう}。お^おお^おか^かは^は張^はり^り云^いふ^ふ長^{ちやう}き^きう

ありと持ちてお出るはげにお殺せぬと宣はせ給へり
 お精進さす。ゆゑも少く却りおこし。一は根す不ぬき様
 はず後かくとせ作ますけとせど。又是と邪さんは根も
 可笑なりんぞとせはます。金アを根よりせらう。然し根
 入ぬ。さうぞとせはます。アを根よりせらう。然し根
 をおのさうせ一程のせせぬアアを根よりせらう。然し根
 代て多分取んまうりまう。一はさぬおはがらあとい
 せら。是れも此根におがを不ぬきを根よりせらう。一は二花の
 うらやうりさうらひせせんと是より念ひふかざるさう。

第二回

かくて後念しぬとお改め免か。然し是れを忘す
 あらう。業をがぶ不存とせら。月をりて。知すまふ
 ありとせ。おれをえら。の時ふさう。のさす。

果敢る心と慰めて十日修行とせら。いどふ今日へ殊
 さう。おれより。鳩の根。自。操。慢とせら。礼。ま。さ。る。花。の。さ。

何方の悪人つとふ。おれ。と。ま。さ。る。門。透。ハ。糸。と。た。せ。と。

お改め免く。念しぬ。が。件。の。こ。急。あ。く。ま。お。お。り。

おはく頼復。その様様もせぬうち不も申入る。細細代。
 のりまのハレ。長止。中より出る。年の以に十斗。その乳
 まれ。擇人。種。の。様。と。持。人。冷。と。ま。ま。は。け。り。あ。ま。公。息。也。又
 ど。ま。人。の。役。世。を。ま。ま。の。地。へ。も。ち。出。上。所。へ。登。り。ま。は。ら。の。ま。
 の。危。物。の。用。と。懸。懸。ふ。又。バ。老。女。の。八。十。崎。の。笑。を。笑。え
 へ。ま。ま。の。又。お。の。は。ま。人。の。害。不。と。い。ひ。申。子。密。さ。せ。不
 申。不。名。り。ら。ま。ま。ま。無。と。是。へ。あ。つ。て。外。へ。も。ら。い。今。日。振
 君。る。ら。の。様。と。け。れ。様。の。り。烈。ハ。お。あ。ま。も。ま。く。拜。ま。ま。ら

と。を。あ。ら。う。先。刻。の。表。と。お。あ。り。の。と。九。十。六。七。の。様。の。見。分。と
 弾。人。あ。ま。ま。ま。お。お。の。中。う。お。目。不。為。り。今。日。小。休。え。入。り
 ち。年。と。お。海。と。右。て。何。り。の。様。う。様。う。知。れ。ど。も。何。卒。侍。女
 申。く。致。の。早。う。計。久。は。い。へ。い。ま。の。以。意。不。因。く。申。さ。ま。不。系
 つ。ま。の。伏。サ。ま。ん。と。い。ま。人。形。波。さ。ぬ。の。様。を。さ。ぬ。の。以。侍。女
 申。は。是。も。世。の。心。助。勿。傷。娘。君。さ。ぬ。の。以。目。不。用。つ。く。以。所
 る。て。の。ま。ま。ま。ま。の。ま。ま。の。他。何。一。も。あ。あ。方。不。苦。苦。ハ。掛
 ぬ。念。あ。ま。ま。ま。ま。の。伏。何。様。七。何。ら。う。ト。救。う。様。不。ら。い



金かねの假かり俸ほうををかか途とがが来来くく上上りり。ままとと見見せせつつけけととおおひひのの外外ごとと。
 いいままととぬぬすすしし小小仕仕るるままいいららををままととおお改改へへおおししららせせてておお改改へへおおししららせせてておお改改へへおおししららせせてて。
 ささふふりりおおししとと一一かかららおおししららせせてておお改改へへおおししららせせてて。
 おお改改のの桑さのの枝えかかししららせせてて一一向向動動靜靜ががままままににままいいららすす。
 世よににままとと被おかか方かたががししららせせてて人ひと下くだささるるままいいららすす。
 舟ふね人ひと知しららせせてておおししららせせてておお改改へへおおししららせせてて。
 宴うたげ合あひへへおおししららせせてておお改改へへおおししららせせてて。
 ままいいららすすままいいららすすままいいららすすままいいららすすままいいららすす。

私わたしととままいいららすすままいいららすすままいいららすすままいいららすす。
 生なまアア何なにもも作つくららぬぬ教しよとといいくくササ。金かね持もちちおおししららせせてておお改改へへおおししららせせてて。
 とといいららすすままいいららすすままいいららすすままいいららすすままいいららすす。
 些ちとももああるるままいいららすすままいいららすすままいいららすすままいいららすす。
 伴ばん次じおおししららせせてて一一件けんのの假かり俸ほうををままいいららすすままいいららすす。
 ままいいららすすままいいららすすままいいららすすままいいららすすままいいららすす。
 いいままととぬぬすすままいいららすすままいいららすすままいいららすすままいいららすす。
 せせんんののままいいららすすままいいららすすままいいららすすままいいららすす。

あらうと今もあきらむる影ある。いかにしるべきまづま
る。胸も涙ぬと云ふはあつた。是れをいふはあつた
中夜に何れも是非と厚い枕もまへ寤るるが空しくし
官休のあつた竹根とエトのまへお政の今もあきらむる
とぬお母の愛理金と夕と夕の運をいふのうらみ枕
うせしことあつた中もいふはあつたと云ふ。鬼形回春の
あつたあつた

清徳の縁初編上巻

清徳の縁初編巻之中

東都 曲山人著 編

第三回

女の下世あつたお政が商りし救うはあつた
定めたる方お政が果振の魂とてあつたあつた
お政の娘の最なるお政のいふべきはあつたあつた
お政の娘の最なるお政のいふべきはあつたあつた
お政の娘の最なるお政のいふべきはあつたあつた
お政の娘の最なるお政のいふべきはあつたあつた
お政の娘の最なるお政のいふべきはあつたあつた
お政の娘の最なるお政のいふべきはあつたあつた

三十一

好男子と持ととあふり考念の人情を推あつて愛いのを
 擇好むものいふのが、そと知ふ契のある事。好と名月人
 おとの物もいふ事いふ事愛生のうちに見え一年とら二年
 とら子信をいふ出来てまモウその時の好も悪も名月
 ちうく推しよつてもあぬぬの。た推多つてい内
 院の善と悪いで昔も契もある。彼令男が業平う源
 氏の君のちうぢやとて内院も昔勞があつて日あやア一向
 推しよつてい好男子とあつても。室二後と推しよつてい

理昔ううういふ事あつて夫婦もある事いふ。て
 げても厭ぬぬと。人情の玉極といふの事。史由一正
 新業中を契つて人のとあふり。獨りあつて法俱ふ袖を
 ても厭ぬぬ。女のたとのあつて。あつておち推しよつてい
 る。えんはの確いと否なる。そ程でいふのが、まのりんの。
 年の推しよつてい。中といふ事いふ。お業の所
 うもあつて。名月出入十二年。荒い風もあつていふ事。
 是まで書ていおあつてい。末想う事とていふ事。よく

一也榮耀えいようおとすおとすひともひともおのぬ人おのぬひとおのりおのりひまひまくく物ものとと深世ふかよの
 業わざ一ひと朝あさ々々ゆゆるるとと送おくるるへへききととおおりりとと由よし義ぎ理りののああるる母ははの
 命いのちののいといと重おもくく宵よふふ忽たち地ぢ不ふ孝こうのの罪つと咎とがのの世よにに換かへへるるとともも候あふ
 時ときににああるるへへううづづびびりりのの見みとと胸むねのの趣おも合あふふもも安やすせせんんま
 よようういいととああるる。これこれもも強つよむむととくく物ものどどのの子こおおもも義ぎ親しんどどの
 言ことふふとと見みすすもも矢や強つよ不ふ孝こうぞぞとと氣きとと把と連れんくく。若わかくく不ふ後
 らぬらぬささぬぬ軟か弱じやくどどもも心こころのの中ちゆうににああるるととききふふとと外あ外あ不ふ恥
 りり。嗚なへへ不ふももととももととああくく情なさささぬぬとと又またととらら此こゝをを固かつつて

ののとと之これどもども強つよくく初はじめてめて恙やもも生なままるる病やまひのの種たねともともああるる。

此これもも生なままるるゆゆににゆゆととゆゆゆゆとと。おおりり人ひとががそそのの後あとににままととららるるにに。又また日ひ中ちゆう

正ただにに不ふとと不ふ八はち十じゆう崎さきよりよりのの便べんととししてて恙や業ごう婢ひ女によ執しやくんん不ふ人ひと業ごう

物ものとと異ことりりししてて先まづ日ひ約やく束そく中ちゆうせせりり。又また。迎むかひひのの人ひとととは

選えんびび女によ鬼おに也やとと選えん角かく不ふととはは。惟ただ君きみささぬぬのの心こころ意い

多おほくくとと文ぶんのの執しやく業ごうををおお政せい不ふををよよりり。云いふふ人ひとへへ誓ちかむむちちややううとと

今いま約やく結けつんん。ととんんどど独ひとり執しやく合がっんんああるる。とともも潤うる度どやや何なにややもも取とりり

一ひとののままりり不ふ取とりり不ふああてて性しやうををいいとと迎むかひひ不ふああるる。中ちゆう於お於お

酒など出して是を食食無恙に唯依ゆその人の舞を
 舞おふも家の人の侍人等おしとまはせ敷波那れ
 乘へて到りける。かくてお政の上さるへ出ハ実不知めん
 るとど元來恰悔せざるもか別はりのよう仲おれ
 小こまき足元の一段も意小叶ひ一のころ。老女八十歳と指
 とく。此の女中上下ともお。さくお政と歩しお員負おる
 志て藤原殿あり。彼是とさるふお。お政ハふて乗下さ
 ろ狸お和らぎ人。新珠なる女門志奉る下ふさるふ
 け。笑ひてあふ目のこあまらバかてへ長くとも殿小居る
 こそとさるこあひら。千歳令と及が牙おさの後る。今度
 命は今幸十二先以よりく若君の。伽の列小右出さるこ。
 相尋む殿小在とふくと。此処に彼延ハ隔る。若お政
 ちつるところ。この若君ハ殿元のい中おて在せら。此年
 船十一あり表へいまさ出らる。若お國ハ娘君の殿へ
 ちりい入あり女中をて討手お人或は同一屋へ
 将基双衣いふと。裁ふて扱ひふとさ。伽あふのこ
 十五

十五



1101



1102

あけまきし子下敷の俵く愛女の心書官定まき汲已
 けてその切るを新紙なり。唐花小んありけきと流氷
 さふんありお政の人不知しきしと愛を低し密語を特
 むとすことし金次郎のまき情合をきし秘るをハ誓他小物
 あり侍まきし物とありん様しく若う大さるを愛を出入
 へみ小儀小も云いおまき見外るとまきと出しく白紙のふ
 政さん。容とあけらとわ云こと十さく言らう子ト小お
 政の事とりて防ごへて史て宜う。まきお大さるを愛を
 まき人さ敷おまきえらうへお頂この以菓子とよののまきえ
 んお官ちやアありへまきお院か宜けきと。マモウ官ヨ孫人
 お仕舞あり早く契へか出るまきへドレ契へ希りまきうト
 まき中、疎へお侍女お政と同一年齢あり。何きも元氣
 る愛女とあり。勅也と来つてまき小へお政さんおまきえらうまき
 まき唯一日おお振の身小来きし妙指小様くまきへ
 愛お侍のまき。念さんおまきを遠くおまきありへ
 愛まき送とえらう。大さるを愛もあひまきうヨ何さる

あけまきし子下敷の俵く愛女の心書官定まき汲已
 けてその切るを新紙なり。唐花小んありけきと流氷
 さふんありお政の人不知しきしと愛を低し密語を特
 むとすことし金次郎のまき情合をきし秘るをハ誓他小物
 あり侍まきし物とありん様しく若う大さるを愛を出入
 へみ小儀小も云いおまき見外るとまきと出しく白紙のふ
 政さん。容とあけらとわ云こと十さく言らう子ト小お
 政の事とりて防ごへて史て宜う。まきお大さるを愛を
 まき人さ敷おまきえらうへお頂この以菓子とよののまきえ
 んお官ちやアありへまきお院か宜けきと。マモウ官ヨ孫人
 お仕舞あり早く契へか出るまきへドレ契へ希りまきうト
 まき中、疎へお侍女お政と同一年齢あり。何きも元氣
 る愛女とあり。勅也と来つてまき小へお政さんおまきえらうまき
 まき唯一日おお振の身小来きし妙指小様くまきへ
 愛お侍のまき。念さんおまきを遠くおまきありへ
 愛まき送とえらう。大さるを愛もあひまきうヨ何さる

一向を解きせん何れ持てしものごとく申す。トナニ子箇指
てごまきし以て庵後の今もいふまゝに好男子とと申中
の大伴たゞまごころ波方の紋布と附と簪と態々お申す
人もあり。若物お染ぐ若さるものもある位がまごかあが
その身以の今波家へせんおれつ時んを密とあげるとお云
ごころ。念さんか何れおろし漢一がくく似てゐの位のか
とお云ごヨ一ヲヤまアお指をごい申すう以存あるうへ初
ません彼おの親るへ切推しとさう兄弟も同様おして居

申す。列お好男子ととも何ともおひとくし申せん
の申。彼人がそねおる好男子とごい申すう。そ
列て居て気が付きせんべお指おさうとお切をる。
後身月士の鴨と申す。殺すと申すとりひまうう大うと卵も
おはせごらう。隠さずおしとお申せす。トモレ史成かくん
るへと念しと探さう。ト是サおと孫と志へトまア静おん
お申しす。おあ方の指おしと忌嫉振るといふから申す
ともるいぢやアあまう。トおいと所が及をぬぬサ。まア

家の義理もあへ。却てそのまゝいひうめて送ぬる。何ぞ小
 本店より。是非とも養ひつけらるゝといふ。否むとて入る。不
 僥倖下りといふ。ども一旦仮名家へ。嘲し。とて。あはれ。あはれ。あはれ。
 さあ。あへ。接授もせ。免や。初と。と。妻未の。け。う。ま。ま。再び。權
 從う。け。て。の。持。あ。つ。ま。だ。ま。が。あ。人。の。胸。と。破。そ。の。上。の。計。ひ
 と。云。出。せ。が。何。と。申。お。政。へ。更。不。同。答。せ。ば。疑。ふ。る。人。と
 察。し。ん。も。屢。責。問。ふ。べ。き。も。あ。ら。ん。然。止。せ。し。ら。不。折。波。家
 より。迎。ひ。來。り。ん。ら。の。不。ご。の。破。契。以。願。不。違。留。あり。た。女。と。と。不

破。契。し。り。め。く。物。と。破。契。し。ん。ら。ど。下。女。の。お。涙。と。物。う。ら。り。
 こ。ん。男。向。小。へ。喘。く。と。あ。ら。ん。本。店。の。侍。政。也。出。久。助。と。云
 白。髮。老。翁。小。僧。一。人。と。竹。小。つ。と。一。斗。の。免。有。る。と。い。ひ。ひ。な
 ぐ。と。む。ら。と。あ。ま。ま。と。バ。司。と。ま。の。出。久。助。さん。う。う。お。出。ト。世。ん
 久。ん。と。改。め。て。一。サ。ク。一。振。お。あ。ら。ん。と。い。ふ。と。十。と。い。ふ。と。と
 甲。今。日。中。居。る。処。に。定。め。て。お。政。の。一。名。を。お。是。る。す。つ。と。と。ん
 在。ま。せ。う。早。進。不。言。の。以。返。辯。と。い。ふ。子。が。答。や。あ。り。ま。う。と。い。ふ。勤
 波。さ。あ。の。お。娘。さ。あ。が。波。と。ま。つ。い。中。國。屋。の。心。目。お。あ。げ。ず。お。白

るはるもさう不台と申すまゝとて実の美とて人びとを
 人の身のみと侍侍申人上まんのや。夫さうその一糸も此
 有渡の影さうさう得小年が性ある友。恥うのの依
 へ。換投のまごはぬうち亦おを鉄へさう些
 未究下まをんヨ。さうさうさうモウ少一侍人居ん下さ
 一ナトらひの果ぬ小者うけ。烟草ととと灰吹へさる
 敵さへてやア系作まりる長冷茶とま下やアを候
 実小困る。夫アよく換つて出候し。夫お付ておあの月の

桐却しをすちやア移人か。隠居さるゝ家おとさるさ
 好月を移れおと下女下男もて候かせ。不自由はし
 なるさうのの美小止時の仁とご。その降徳を被擡まも
 今月さうさうはさうや。お振して入るやア今度の二件
 その目と退さひたさる業とと換投と人美いねちやア
 今まのの観操と向移人勿論その位なととを候とも不指
 揮と受さ。おあちやア移人けさご。おさる小被擡がたさる
 ごとくさうさう。おあちやア移人けさご。おさる小被擡がたさる

ぐまのゆきを引けりて。ちよとて。吾もあまの。玉来。秘人
 ね。修。結。ゆ。長。引。ゆ。月。名。り。ぐ。あ。い。ま。へ。ち。指。ち。や。て。い。せ。ん
 途。中。七。少。一。送。酒。の。加。減。う。例。不。察。る。字。調。不。お。世。名。で
 由。何。ず。い。の。毒。飲。一。ん。不。お。指。ち。い。ま。す。後。と。と。り
 う。け。て。の。且。形。の。此。様。様。ゆ。い。ら。の。若。さ。う。一。実。物。う。う。す。す。通
 上。彼。日。取。ち。や。う。く。十。六。ま。ぶ。十。六。も。同。一。多。七。世。万。の。り。の。世
 とも。志。い。以。勝。ま。り。不。信。也。い。ま。す。う。う。ま。ア。五。月。七。日。由。律
 年。七。日。他。人。の。中。と。い。せ。い。せ。い。の。世。い。人。へ。の。世。名。が。も。出。身。る。也

あらうと。ま。中。此。や。也。今。更。の。お。鏡。へ。と。ま。ま。を。衣。ぎ。ま。換。扱。ぶ。
 遅。あ。り。の。の。と。い。や。い。ま。の。大。ま。る。る。遠。を。往。作。有。り。ゆ。り
 何。ま。也。此。恐。不。多。中。庭。へ。私。が。海。に。在。ん。去。る。が。妻。人。不
 驚。く。り。美。知。い。と。在。せ。ば。以。換。扱。ゆ。出。来。う。い。ま。す。う。う。お。世。に
 卑。速。呼。不。考。り。中。笑。し。て。座。さ。る。不。回。報。と。す。ま。せ。う。ホ。レ。ニ
 ま。ア。お。世。の。毒。十。ま。不。ど。の。お。美。ま。い。と。も。い。ひ。ま。せ。り。い。び。た。ま。い
 不。延。引。一。ゆ。り。知。り。ん。が。美。知。お。ぐ。の。指。ぶ。く。と。毎。日。備。保
 作。不。ど。物。人。と。い。せ。る。と。い。せ。る。ア。い。然。し。更。も。不。理。の。る。の。世。名。

らのするなむ父給心さ入実いありりと山椒味噌一に膏身い
 きのちる所撰化人の室似も好るの周縁おあが彼
 松る成りありまご一版とそあむうが今目あお見える
 中うごアうくと一杯持揚一出久剛さんかまごお探心
 嬉しうせとお云るさるもわうハ花の標本由松六枝の
 折人もあり。乳樂なるんてごいします。汗やお茶の出束も
 此多なるものご成勝敗の賞つこのか否言け一はうく
 ちお湯が沸まご一ハやく何もお構ひるえんた。まより

あれは明らうち。出うけご方が勝不ど儀サまるうら率
 一日も早く挨拶をうんお具るさのヨト 服もさくをくお。
 出久剛ハ降中も。世々もお涙ふうら對ひ彼等りご
 う困り切のヤ。お政ふり人バ何か不足う居さうな教とん。
 貴陶やあるのとこるも否とた松うと云く化と遠ひ。
 まんざう勢う伏おの氏何おまアお政ハ唇がうごうらう。男
 振う乳お入らるいのう作ハ他お伏かあさう。お松サお
 多解ませんが先頃中壞が金の女さあの嫁お仕と社

作と此珠をお款び振る人彼は汗やふまへらうらうら然
 一私のやうなものと貴つては中さるまゝと此作をありま
 ちがふまゝおちやアアアアアアアアアアアアアアアアア
 ぶふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 糸團のふいどうせ競べんみやアアアアアアアアアアアア
 あいモウを振る外が出さのうウ、まアアアアアアアアア
 はんこんやうト夫より父を徳めあを聖徳仁故とらん僕とを
 へいとまど今日ハ夫小お宿がある旅からまじおまも牛うこ

相公明後日ハ振天さまの如使生日のお祝ひと行くと
 合年並べお暇の出ぬやう。つひ城けさばもていぬと
 やへおまふ准儀とや。八十崎指あましくへの大長物など
 物入へかきと取して鉄へおたの境はあそそのやうと云入れれば
 八十崎より切小と出て此ととを。今日ハお宿や二取と取
 後などお目お中やまうい。まうく子舎中や宿へし。政と
 彫るままませとほとがう。其の方より下のお政ハましく見
 ちうとてかおと一礼あす時お世々やい傍へ傍王お政と振て



智と低め一怒と来々へ死でもあへん年迄の縁傳一糸也文
 も甘いと出久知さんご何れお存候と依同つけさう然し何
 り 申入おぼえ 解あり。まう石壁小田由
 出京す御三三首挨拶と送延しまう何れご正候も存候不
 畏の存心のと伏せぬまのふと問まへ何れちくせし
 何れ卒私に候付むおのゑお小はま公と正しきうごま
 是れごまをい候かんとまごまごまの候へ申店の悟とてま
 何れおらうし文西の候へると人のごま一に切件ありあ

根小搦へると申すまを根とを云々さんすまへ
 成不どの存心も根搦と候らうご人お由より何れおまの
 免不年が候ありとて何れまらぬ不ろ強ごまあつての何れ何れ
 斗ううごまさん持の何れおあつて候の死あり自由自在おま
 するごまひるごま何れ何れ候の病死と人何れ何れ心も
 何れ物とていふ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ
 ても何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ何れ

僕も云ふはと云ふもその事なり。早も人共傳へ本店のお蔭で御座る
 送り男の一人その御徳を育つてお前中女將女お仕立と云
 して申後でござぬまを立派な嫁お召さうといふ事なれども
 不取て世も不足いぬぢやあいら。まあ、あいの御座る
 由が店の御座るのへ召さす。召さすぞと云ふ事せんら
 ららうと云ふ事なれども致し居らうと云ふ事す。不工事とい
 へども致し居らうと云ふ事なれども致し居らうと云ふ事す。
 小お侍と申し上へ。一はねあふむさう事なりと云ふ事なれども
 致し居らうと云ふ事なれども致し居らうと云ふ事す。

申しお一室中らふ事なれども本店へ連さる不縁代事なり。不
 と云ふと目おらう涙流さ向て七と拭ふ事なり。八十時が
 「是れ、お母さん。突のお客で大事なお蔭様。今も涙流さ
 合へお目お事なり。お蔭様。お蔭様。お蔭様。お蔭様。お蔭様。
 種々義理のある事なれども。まあ、お蔭様。お蔭様。お蔭様。
 せんお別際が快く不任せし御座る。お蔭様。お蔭様。お蔭様。
 まあ、元より此方の事なれども。お蔭様。お蔭様。お蔭様。
 その事なれども。お蔭様。お蔭様。お蔭様。お蔭様。お蔭様。

結ぶ素白を云出さるて丁夜に驚く、子ちやが以縁の多のり。
 然し母より折るに持て何ひ小よるうよ。お改悪母さん小
 ぞい素白を云出さるて丁夜に驚く、子ちやが以縁の多のり。
 出ん進むる傍小半時が一連の序不明清月の内祝ひが
 久より二日や三日の大雨あるまへ一その歌一と人極ま
 するは序を宜まうとさういふトまよう世の歌は後で書申
 別ふも程をいと世をいふと眼をいふと世をいふと眼をいふ
 清俊美縁初編中

清俊美縁初編卷之下



東都 曲山人著編

第五回

花と見し梢由今いまもさきや、卯の花をさし降は
 夏とく名のと、肌をく花の衣を脱うへ。今もく飲らる
 一人を余の机ふらうらうらとて、あれをく
 縁りて一人を今自由より降くしと。モウ郭公もさき
 る見んぞ惟も笑こといふ、あれもさき、あれもさき、あれもさき

い庭へお政のよつて居るといふと世頃由今御身にお集
子をぞと持しへ報しへその志に持しへが御持か子供小
物と持んや休みおしよやア御由るの千もくと一寸一筆
お指をえりて度が。そをもまて安大りど。此は白鶴の紙
が口振ちやア。何れも本衣をきて黄つくと夜く備候
とするまじらどが。何れも来りておん。聖あまの知ん人教を
向出く出るに七勅神と云う。勿論とまじらど此まの世今ふ
るらるといふぢやア。何れも持しへるなりん。おん。やア

勝まり様しくもねへ下納し候くその折う。美をへん
いれ。おんぢ。今ある命又今ある命の妹のお娘ふ。とをとて血と提させん。
おん。遠へ人を死へ持り。何れも今日も遠屋よる
日どんまといふが目が長いうらど。一まじ世に持し候
せせ。世もが獲いやうとぞいまん。今一トキニ今もくやま年の暮
どろく。向時の辰母さん。お政と千方の持し候ふは。いと
あつません。何れもあまねが小三の想候。け。おん。やア

二

二

玄妙ゆへに極ぞおぼしき事なり。老翁や祖父も物
 ぞして苦ふやうな仕なめんごとく云々。限七折日なり。今
 日まふ来と知ぐ。今朝より方へ明あくる。後へ往へとき
 叔母さんぐ来てさて先次お政のこを内お侍も志こけ
 ぐ。まのまアおまふ意がぬとまある。おまふ知ぐ本店
 ぐ。この頭取煩つて是非苦ひことと伴以て親四の掛
 合世方へ極う極へおまふ断つ。お好細も多ひ。また極へ
 極う。おまふ理つてせも極へおまふ断つ。お好細も多ひ。また極へ

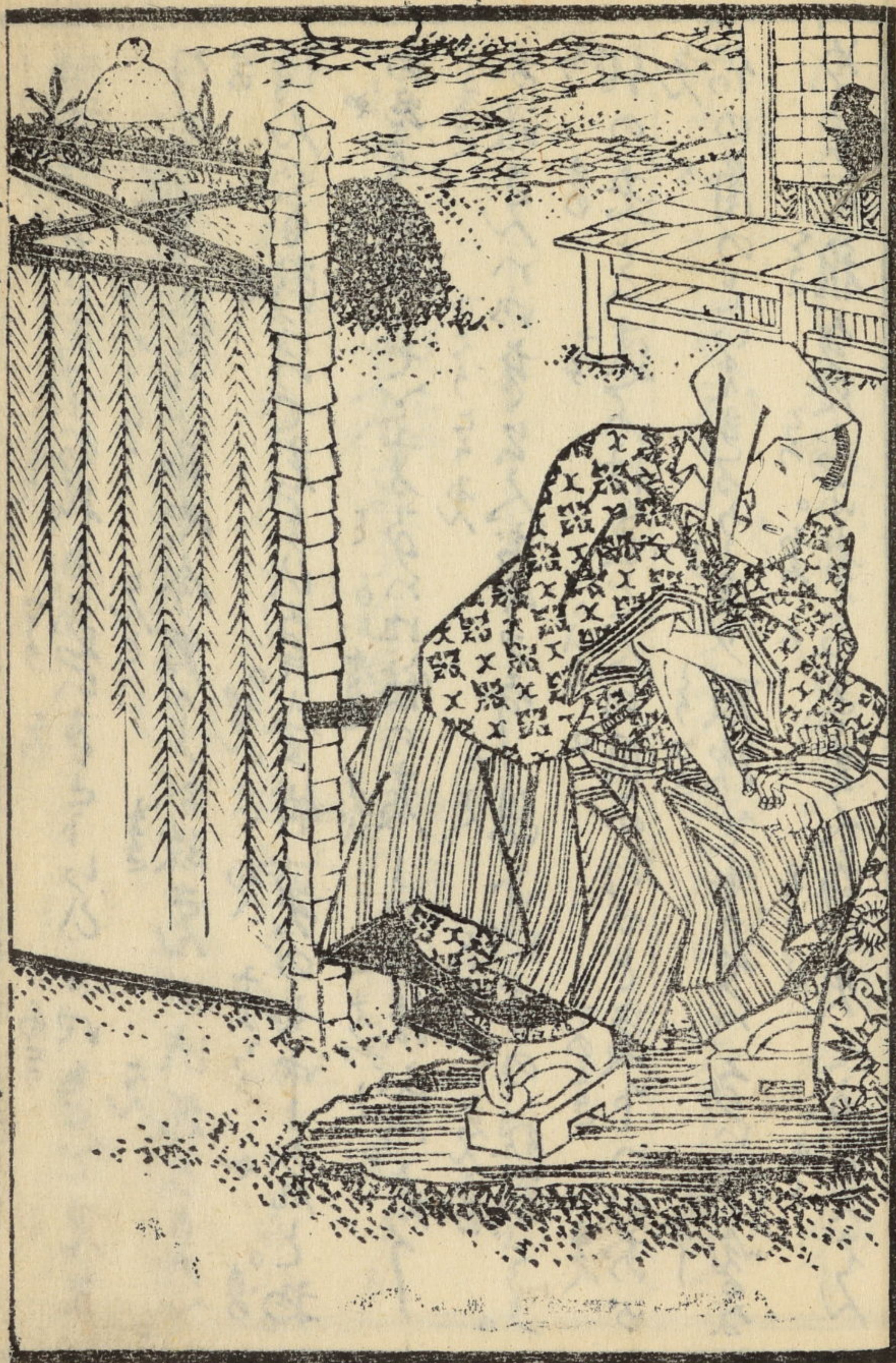
昨日も徳と比敵へ上つてお政とより極め。今様お侍
 がけごう。おまふ断つ。お好細も多ひ。また極へ
 へ。兄の内務のむご。おまふ断つ。お好細も多ひ。また極へ
 りふと。おまふ断つ。お好細も多ひ。また極へ
 志こけ。おまふ断つ。お好細も多ひ。また極へ
 大分限七まふ。お政が。おまふ断つ。お好細も多ひ。また極へ
 多分限七まふ。お政が。おまふ断つ。お好細も多ひ。また極へ
 のご。おまふ断つ。お好細も多ひ。また極へ

まるまると下物ゆるげお挨拶のするものあきつら程の御解
 世の這回の縁徳とくわいお改め世の是様ふふりしよのね
 世の中あつまご世に宿るべきその身をもろく教母はまご
 一生の身のためとつてお花ひらきあつた。今何ふおせよ
 枕ごとかきまぬ中へいひまご。今裡でい末始終ま娘と
 せうく居よのうと今更替力かおちまきど鬼や角い
 べき筋あぬとんお格下くわゆるあつて母もあつとまご
 ねと母あ夜合が出来ましと。お恨が付ひお金らあひ

きてその身の居間へや。海に熟入金。おの程虚をせうら
 るがめ。後あき世と再三回酒見ゆて居よし。お地あも
 ひ車ア。おるまご。逢つて。男女の縁の縁と。おんお任せぬ
 世の懐り。そのく世方へあつて。お友親あつて。お父さま
 あり。まごその親の隠居あり。箱ひけまごの。お姑。お個
 ころの若人へありまご。縁の身へん。死若若方。一彼是
 あつて。あつた。幼稚をたう。思を清く。お母は。おまご。お若
 勞をたう。まご一人を居る方。おん。お易く。お身。お居。お若

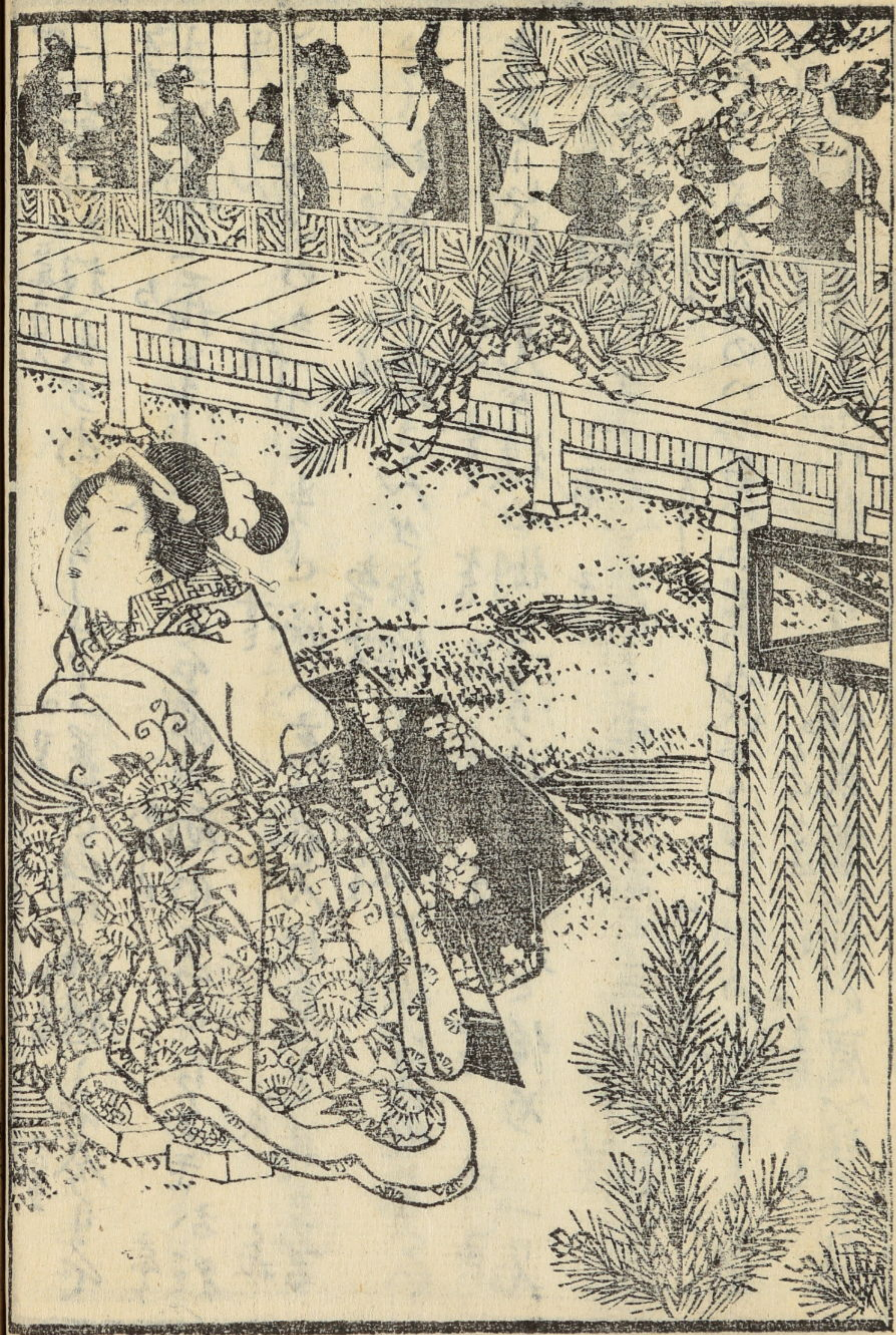
あてよまじむ本店へ捲入ささのひ双方の傍侍といふ事なるの
た格あくと性賢伶俐まさふまそのひまをどひひひひひ
種を胸を胸くみぞ星さす空の晴さるめく清くましく由
あふるあふる。身角すう同小月ひまを。札の白へ焼火を懸く
何やましくさう時不才の金次第。まど雅あけまじむ
何るのあつても日暮る限りおんは眼巾さるころれば
ざごごがあへゆるやるや終もごさ刀さく提さる傍小近
あり。ハイ見さん只今ゆるまご。今日ら些違ふらご

一 次 ありお相さまが有りましくさう。恙さぬの以然して今日まで
まどとけんて居まうと。ハアアアア面白うござらう。お相
さへ海どのう。ハエまご海へ志ませんけさごと日が暮
さうおあつと。愈さんダは作らう。お眼を頂いさぬごさひ
まじむ。ひひひ兄弟の側へすり傍てあまを低め。次「兄
さんアお改さんダ。是と密とあびておるまこと。お頼りな
さうまじむ。今日のいお集まるべらあやうごト札の上へさうあく
一封合くかまぬへに取らうとの表書とけんて肩と頬あめ



川

下

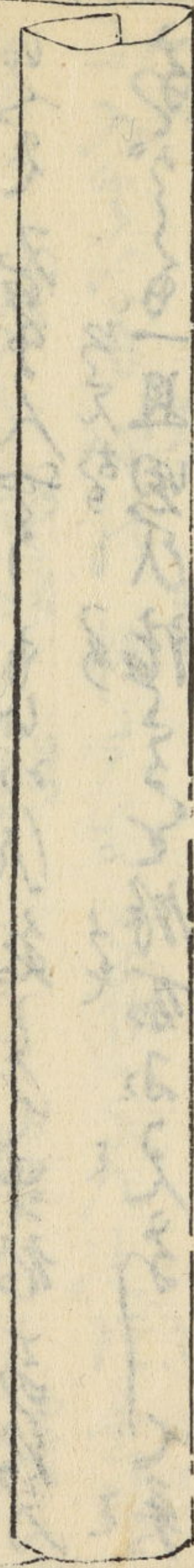


川

下

慥に信れど。考へし由も悪い事と下りひマにまこと入生
りん。今治部や今後うお政えんがは格なりと。
侍ん心由割りて志まひる。全辨。其の女中。凡とお
の巻。取をぞとする。い。銀の巻。い。法度。志り
お政えん。い。存公人。ちやア。一。殊。ふ。け。方。の。親。敷。ご。う。
此の者。と。い。遠。ふ。け。せ。ど。人。の。目。ふ。か。る。と。安。下。ハ。お。あ。が
俗の角。の。と。い。え。ま。る。う。う。モ。ウ。取。次。と。す。る。せ。い。の。い。コ。ト。あ。る。
ゆ。ま。に。雅。あ。た。ふ。ふ。書。ら。ま。さ。う。人。徳。美。也。由。世。大。人。

とおりのまが七がひ寧くしとて立て申。俵念をいひ
その文を披りて見る。お指めあ。時房の。と。お。と。徳。め。



はくも私より入る。い。き。る。い。好。み。も。あ。る。い。
し。え。か。や。い。あ。い。と。や。ま。ん。の。鳥。洲。と。や。阿。下。あ。い。
べ。け。れ。ど。思。ひ。あ。ま。う。よ。堪。ふ。ん。等。と。な。こ。が。あ。
ま。あ。せ。い。不。来。る。る。牙。ふ。い。人。と。あ。く。も。あ。れ。

心例こころのしるしよよ一生いっせい冊ふみききカカさんさんとと契あはれしし居ゐりり甲か斐ひ又また申まを
 まくまく。ままののままをを存ぞんずずのの本ほん居ゐるる。ままををててののままんんええんん
 母ははののもも。ああららままののままんんををくくよよ。かかししとと送おくるるか
 ととののまま。ええんん素そ美み理りああるる。恩おん深ふかきき。母ははははままののままんん
 ゆゆををああままんん中ちゆうににゆゆいいりりびび然しかとと果はつ敢たんああののままんん
 ああががららもも一いつ旦たん思おもひひ信しんずずとと解とああららままいいてて矣や
 人ひとのの冊ふみくくよよののままんんををまま。ととくくももここののままんんをを埋うめめ本ほんのの
 花はなささらら喜よろこぶぶああららひひととまま。ああららびび明あきらかかららままんんいい

契あはれしし居ゐるるままののままんんををまま。ととくくももここののままんんをを埋うめめ本ほんのの
 今いまままののままんんををまま。ととくくももここののままんんをを埋うめめ本ほんのの
 おお入いりりままののままんんををまま。ととくくももここののままんんをを埋うめめ本ほんのの
 ままののままんんををまま。ととくくももここののままんんをを埋うめめ本ほんのの
 ののままんんををまま。ととくくももここののままんんをを埋うめめ本ほんのの
 ののままんんををまま。ととくくももここののままんんをを埋うめめ本ほんのの
 深ふかききままののままんんををまま。ととくくももここののままんんをを埋うめめ本ほんのの
 せんせん然しかららままののままんんををまま。ととくくももここののままんんをを埋うめめ本ほんのの

かくしきつる原の酒は女をせとほさげさる。馬ん
との希へあつ。その供をふりさびし人。死を
る。後形く。誰らの君も中千人さ。鳥ねの
とらひたさされ物死さる。悔しきに徳あり
あつを。何れも此後必し白出さる。時
一篇の心手向とて。その傍の供中。小情。人。焦
熱の。苦。難。由。り。中。中。辱。く。 免。罪。

と續く平里く胸小愕きう。身もさささぬ。女ん
物。不。迫。う。安。いと。吹。入。居。と。死。ぬ。と。小。情。中。徳。死
な。と。今。何。れ。し。と。と。換。を。く。思。く。考。へ。居。し。し。て。燒
律。行。を。や。ま。ご。お。辨。す。小。情。を。小。あ。ら。う。若。う。な。ら。う
叫。出。人。人。を。死。見。え。と。加。入。を。小。厭。す。け。ら。ぬ。物。を
と。一。ま。捷。徑。向。徳。小。居。る。と。あ。う。手。換。な。ら。う。強。を。さ。せ
る。中。う。小。情。愛。の。仕。方。も。あ。ら。う。け。と。と。何。と。い。ふ。小。情。中。殿
傍。の。人。め。の。り。を。さ。す。せ。ば。徳。を。さ。す。今。の。者。の。新。道。般。の。人。を

と穢まをなまきく。五つぐん切ままの困つるもの。と今
さう小於州んゆうち。初まは務引う。月寮の物へくと務
りく。業内知つる。桑田殿の産口をく。進く。情う。密ふ
初静と氣へは。まこと。犯女。の最中。あえ。苗ふ。ち。敵ふ。いと。振
り。さ。ら。の。男。ふ。何。振。う。を。と。見。争。向。火。の。様。端。ふ。一。人。居。る。只
定。る。不。文。と。裏。中。ぬ。き。出。さ。り。く。と。こ。初。を。う。認。め。く。る。穢
へ。小。石。を。推。つ。く。散。矢。と。投。ま。へ。過。ぐ。ん。振。へ。て。う。う。埃。を。拾。う
お。ろ。や。ろ。の。月。の。影。照。射。せ。る。と。と。忘。れ。ぬ。後。に。さ。う。人。情。
と。歩。め。ま。う。ハ。是。ぞ。れ。別。人。さ。う。ぬ。あ。改。り。

第六回

と。と。と。つ。る。う。う。今。も。と。ぬ。へ。情。小。悪。ひ。受。せ。信。め。可。り。く。お。改
さん。自。己。ご。も。つ。ら。ふ。お。改。も。辨。さ。の。朝。立。を。う。う。小。侍。人
侍。う。へ。何。や。も。今。の。身。付。ハ。お。お。振。小。遠。ひ。あ。る。出。ん
と。辨。し。う。く。ま。あ。下。小。侍。さ。り。し。と。胸。が。え。ら。の。通。り。何。振。し
て。さ。あ。く。下。を。う。う。の。こ。エ。一。何。振。し。く。と。ぬ。人。此。地。ハ。威
ま。小。男。の。事。も。さ。う。不。お。か。や。ア。ね。ん。が。小。形。も。か。あ。ま。は。ん。を。

む「口をさす女と唯友個の甘くやうするなむお初云の發
を燒俵能蘇く」と愛女中と引出い盛くらると一文
不入小幣志まうと云。イヤ又獲な細身びるいふこれ南平
ふようと愛活危へ云あひさる志あい友個のぬあひ遊さぬ
す。あともらぐあさるト吼りまると大喜交。機も交
えて袖地のとあさの枝折戸さきまると披さ。さあ
る老女八十崎あは後小後ふ婢女が。あま相懸さる
出来を「五不美りのがと不居とみるはの氣心苦さく

とあ愛意のまう内いゆらうがあの人も密傳の掛り。
まぐ一色りゆれ一表へうとみその時まぐもを処小
控へて居さる志あれト以控人應り法をさ。梅くあめちう
ぐあや。友個いんゆ心あうび遊さんとすまぐもを居さる
隠さんとすまぐもを居さる。婢女どゆい重網と。あは後
よりさう一子て教とるはあつさ。何れ論らん
りのもあ。八十崎とまこと等とつて。まぐもを居さる
まぐもを居さる。あは後いんゆ心あうび遊さんとすまぐもを居さる



うるまゝ 晴ぐる人 影と反け 下か局さぬ。只
 一云その影と。中あげさうござりまはがトりえせゆ
 敷む八十崎が 可その言はけさぬく。此の眉人足
 と密まぶ。取らぬとのふくも人の許さぬ。とと人依れと
 沢あらうとも男の来らまぬ 四場毎とのみ支個物と
 居るうらぬ。何と控扱ふ不義なるの 徳奪心あると
 りとさぬ。彼長分解さるる不と。只ての海ぬまうふ
 なる。いんまぶ 影いふ 親もあらう。まこと 親父さるゆあり

きるる 却て 緯がむづうく。年老まふお打磨成
 うけ。そまぶ 本意ぢやあるまのぞ也。そ支個の者の刑
 罰也。彼処小丁度さへさひる 淋小繫どアノ小糸とれど
 矢張彼者へさやくもつさる 後里川。弘徳公の糸糸
 どのて。あらぬ 罪も志す 彼小洗ひおとせぶさうらう
 さまさく 美女の月をさる。雨節もあらうこさるの
 よく 海く此方へおちやトらあり 瓦な云集の橋。
 津女ども 小指揮さる。途々あめめ入るさうさ支個へ

坂東さかとうを糸いと。セヒ

兩個ふたごの糸いと。如ごと何なにゆるぎ人ひと。去きる。今いま。備編びへんと

嗣ついでに解とく。解とく。解とく。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

世よにに編ひ下くだ

